ALT DIARY 英語指導助手の活動日誌

阿蘇市のみなさん、ありがとう。お世話になりました！

外国語指導助手のジョン・アンダーウッドさん（阿蘇中担当）とマイケル・ベインさん（阿蘇北中担当）が任期を終え、８月上旬にアメリカに帰国します。今月はこの二人からのお別れのメッセージを紹介します。

「さようなら、阿蘇のみなさん」

私の生徒たちとの思い出は、最も失いたくないものです。私は3年間アメリカで教師をしていましたが、阿蘇北中の生徒たちほど、賢く、礼儀正しく、才能にあふれ、一緒にいて楽しい生徒に出会ったことはありません。生徒たちは、熱心に勉強し、先生の指示には迅速に従い、規則を破ることはほとんどありませし、学校や地域に誇りを持ち、先生たちやお互いにも敬意をもって接しています。生徒たちをアメリカに連れて行けば、礼儀正しく振る舞う方法をアメリカ人の生徒たちに教えることができるのではないかと思います。

次に、日本人、特に阿蘇の人々の寛大な気持ちを忘れることはできません。ここに来てすぐに、知らない人々からたくさんの贈り物をもらったことは衝撃的ですらありました。この広報「あそ」で私の記事を読んでくれた人たちが、私を呼び止め、ささやかだけども、私にとってはとてもうれしいプレゼントをくれたのです。多くの外国人の友人が同じような話（家に帰ると玄関にプレゼントが置いてあるなんて！）をしてくれます。アメリカでも、この阿蘇の人々の精神を広めてみようと思います。その他にも、安心して暮らすことのできる場所である熊本のこと、優れた医療保険システムのこと（医療費がすごく安くて、驚きました。）、お好み焼き、100円ショップ、おいしい日本のビール、温泉、そして阿蘇山のことを忘れることはできないし、時には懐かしく思い出すことでしょう。

マイケル　ベイン

「グッバイ　阿蘇」

日本での3年間を終え、アメリカに帰って新しい生活を始めることは少し不思議な感じがします。

明らかに毎日の生活の中で、日本語を必要とする場面はないでしょうし、もう周囲に生徒たちはいません。

でも実は、もっと上手に日本語をしゃべることができるように、アメリカでも、これまでと同じように日本語を使おう思っています。3年間で知り合った皆さんと会うことは少し難しくなりますが、時々はみんなに会うために日本に帰ってくるつもりです。

私はまず、家族のいるジョージアに戻ります。その後、ニューヨークで金融関係の職につくつもりです。阿蘇での3年間で、「働くことができる」ということの幸せさを学びました。そして、私が実際に住んでいたこの阿蘇で、皆さんの親切さや寛大さを享受しました。

私を理解してくれた市民の皆さん、友達、近所の方々、一緒に働いた先生方、そして私が教えていた生徒たちに感謝いたします。阿蘇での体験は本当に素晴らしいものでした。たとえ冬の阿蘇がシベリアのように寒くても。

もう暖いコタツでうたた寝することはないかもしれませんが、阿蘇の皆さんの心の温かさは忘れることができません。皆さん、ありがとうございました。

ジョン　アンダーウッド